

Believe



- ・ 初診時・再診時選定療養費について
- ・ 患者サポートセンターのご紹介
 - ・ 患者サポートセンター長のご挨拶
 - ・ 患者サポートセンターの取り組み
 - ・ 医療ソーシャルワーカーについて
- ・ 認知症サポートチームの取り組み

基本理念

病める人の権利と心情を重んじ信頼される医療を行います。

基本方針

- ・ 安全で質の高い医療を提供します。
- ・ 次世代の医療を担う人材の育成に努め、時代の変化に対応できる中核病院としての役割を果たします。
- ・ 地域包括ケアシステムを推進する取組みを進め、地域の医療、保健、福祉の向上に貢献します。
- ・ 患者さんに喜ばれ、誇りをもって働くことのできる病院づくりに努めます。

No. 2

2023. 12

編集 社会福祉法人 新潟市社会事業協会

信楽園病院 患者サポートセンター

〒950-2087 新潟市西区新通南3-3-11

TEL025-260-8101 FAX025-260-8102

[Http://www.shinrakuen.com](http://www.shinrakuen.com)

新潟市在宅医療・介護連携ステーション西第二

〒950-2087 新潟市西区新通南3-3-11

TEL025-260-8108

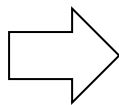
初診時・再診時 選定療養費について

2023年12月1日から 選定療養費の金額が変更となりました。

2023年8月より、当院は「紹介受診重点医療機関」に指定されました。
これに伴い、紹介状をお持ちでない患者さんにご負担いただく「選定療養費」の金額が変更となります。
皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

【初診時】（紹介状をお持ちでない初診の患者さん）

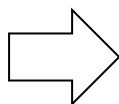
2023年11月30日まで	
医科	2,200円（税込）
歯科	2,200円（税込）



2023年12月1日から	
医科	7,700円（税込）
歯科	5,500円（税込）

【再診時】（当院から他の医療機関へ紹介を行ったが、引き続き当院への受診を自ら希望された、紹介状をお持ちでない患者さん）

2023年11月30日まで	
医科	—
歯科	—



2023年12月1日から	
医科	3,300円（税込）
歯科	2,090円（税込）

※受診の都度

…………… 以下に該当する方は、選定療養費の負担はありません ……………

- ・ 紹介状を持参された方
- ・ 緊急な診療を必要とされる方
- ・ 生活保護、各種公費をお持ちの方
- ・ 特定検診等の結果により精密検査受診の指示を受けた方
- ・ 外来受診から継続して入院された方
- ・ 治験協力者である方
- ・ 災害により被害を受けた方
- ・ 労働災害、公務災害、交通事故 など

再診時 選定療養費について

主治医が他の医療機関に対し紹介を行った後に
再度当院への受診を希望される場合には、
診療費とは別に、選定療養費をご負担いただきます。

A医院へ紹介状をだします。
当院を再度受診する場合は、
選定療養費がかかります。

(後日)
先日 A医院へ紹介状を書いて
もらったのですが・・・
やっぱり、信楽園病院を受診
したいです。



【再診時選定療養費】

2023年12月1日から

医科 3,300円 (税込)

歯科 2,090円 (税込)

※受診の都度がかかります



…………… 以下に該当する方は、選定療養費の負担はありません ……………

- ・ 紹介状を持参された方
- ・ 緊急な診療を必要とされる方
- ・ 生活保護、各種公費をお持ちの方
- ・ 外来受診から継続して入院された方
- ・ 災害により被害を受けた方
- ・ 労働災害、公務災害、交通事故 など

2023年10月2日より

患者サポートセンターを設立しました

患者サポートセンター長 島田久基

今まで病院の1階に地域医療連携室、2階に医療福祉相談室（MSW）

（脳卒中相談窓口）と分かれていましたが、今回、2階に統合し、新たに患者サポートセンターとして発足しました。基本的には今までの業務を踏襲いたしますが、患者紹介や、転入院・退院などの際に有機的に活動する形に発展させていきたいと考えています。組織がまとまることで、患者や地域医療機関との対応においても、院内外の情報の動きがよりスムーズに運ぶことをめざしています。関連部署である、信楽園訪問看護ステーション、あるいは新潟市在宅医療・介護連携ステーション西第二の活動も連携して、より緊密にすすめていきたいと考えています。

今までと同様、地域医療・情報部長が業務を統括することになり、センター長に就任いたしました。引き続きよろしくお願いいたします。

ラグビーワールドカップ日本代表は、今回2023大会でも善戦しました。彼らはBEST8に進んだ前回大会のモットー“**One Team**”から、今回“**Our Team**”と、さらに発展させたスローガンを掲げて参加しました。当センターも、組織的には統合し“**One Team**”になりましたが、今後はさらに連携の進んだ“**Our Team**”をつくりあげられるよう、活動していく所存です。Rugbyと同様、素早いサポートを目指したいと思います。



私たちにご相談ください

患者サポートセンターの取り組み

医療の場は入院医療から、在宅を中心とした地域包括ケアへと移り変わり、地域の医療機関と在宅をつなぐ外来や訪問診療、訪問看護へのニーズが高まっています。最近の傾向として患者さんの家族が病気や障がい、経済的課題を抱えるなど、患者さんのみならず家族に支援が必要なケースも増えています。少子高齢化に伴い、身寄りのない患者さんも増えています。そのようなケースでは、病院の中だけでなく、地域包括支援センターなどの相談支援機関や役所等と連携し、医療・福祉・行政のネットワークで家族全体を支えていくことが求められます。

多職種連携がいっそう求められている現状をふまえて、2023年10月に地域医療連携室、医療福祉相談室、医療安全相談室、脳卒中相談窓口、信楽園訪問看護ステーションの機能をワンストップで提供する患者サポートセンターを設立しました。地域包括ケアシステムの中で患者サポートセンターが当院の窓口となって地域の医療機関や福祉関係機関などをつなぎ、通院、入院から退院後の在宅療養まで、継続して質の高い医療・福祉サービスをお届けできるよう取り組んでいます。

個別の支援や連携により浮かび上がってきた地域共通の課題は、在宅医療ネットワーク「にしく赤・坂ネット」や新潟市委託事業「新潟市在宅医療・介護連携ステーション西第二」にて共有し、円滑なコミュニケーションと連携によって支え合う仕組みづくりを行っています。

医療ソーシャルワーカーとして

患者サポートセンターには現在社会福祉士の資格をもった医療ソーシャルワーカーが6名います。

医療ソーシャルワーカーは、患者さんやご家族が抱える心理的・経済的・社会的な課題を整理し、いっしょに考え、解決をサポートする社会福祉の専門職です。患者さんやご家族は、病気や怪我をきっかけに思いもよらなかった問題に遭遇し、心配事を抱えることがあります。例えば「退院後も今までと同じ生活が送れるのだろうか」「介護ってどうすればいいの?」「また働けるようになるのだろうか」「生活費はどうしよう」「頼れる身寄りがいない」「車の運転ができないのに、この先どうやって生活したらいいのだろうか」などの心配事です。医療ソーシャルワーカーはそのような心配事をお聞きし、多職種と連携しながら解決の方法を患者さんやご家族といっしょに考えていきます。このときに医療ソーシャルワーカーが大切にしていることは、患者さんやご家族の話をゆっくりと伺い、患者さんやご家族が心配事を課題として整理できるよう対話することです。漠然とした不安を言葉にし、心配事を課題として受け止められるようになると、気持ちが今後の生活へと向かい、解決の糸口が見えてくる場合があります。医療ソーシャルワーカーは対話の中でさまざまな社会制度の仕組みや利用方法をお伝えし、患者さんやご家族が自ら選択し、解決に向けて踏み出せるよう支えています。

当院は外来・入院・血液透析の機能をもち、超急性期から慢性期、在宅まで一貫した医療を提供する地域支援型の病院です。そのため1人の患者さんを治療から療養、介護まで長期にわたり継続して支援させていただくことも多く、患者さんに寄り添い、価値観や家族状況とその変化に配慮しながら、生活に根ざした提案をすることを心がけています。



脳卒中相談窓口について

2022年に当院は一次脳卒中センターコア施設の指定を受けました。脳卒中急性期医療の拠点として血栓回収療法の適用となる患者さんを受け入れています。救急の受け入れから入退院の調整、退院後の環境づくりというプロセスの中で、医療ソーシャルワーカーは脳卒中相談窓口として患者さんやご家族への情報提供や相談支援を行っています。働く世代の患者さんの中には、麻痺や高次脳機能障害が残ることにより、退院後の復職・再就職、収入に不安を抱える方が多くいらっしゃいます。医療ソーシャルワーカーは両立・就労支援、傷病手当金や障害年金の申請などを案内し、生活の再建に向けていっしょに考えていきます。患者サポートセンターの発足から2か月経ちますが、患者サポートセンター内でも、顔の見える距離になったことにより、職員間での相談・連携のスピードが上がり、視点も広がったと感じています。この変化を患者さんやご家族への支援の質の向上に反映できるようにいっそう努力してまいりますので、いつでもご相談ください。



患者サポートセンター 医療ソーシャルワーカー 山岸 裕子

「脳いきいき教室」を開催しました！

信楽園病院 認知症サポートチームの
取り組みをご紹介します

2023年10月19日（木）に2階食堂にて「脳いきいき教室」を信楽園病院認知症サポートチームと新潟市在宅医療・介護連携ステーション西第二との共催で開催しました。



「脳いきいき教室」とは、ものの忘れが心配な方やこれから受診を考えている方を対象に介護や認知症予防に関する学びや出会いの場を目的としています。

当院脳神経内科外来看護師より、ミニ講座として「脳神経内科外来での外来看護師の役割～診察の流れ・事例紹介～」をテーマにお話しをしました。

ものの忘れが気になった時にどうすれば受診することができるのか、受診の流れについて、わかりやすく説明しました。その他、外来受診から認知症の診断を受け、介護保険サービスの利用やご家族・ケアマネジャー等と連携することで、ご本人もご家族も穏やかな日常生活を送ることができている事例を紹介しました。早期受診の必要性や一人で抱えこまずに相談してほしいというメッセージが伝わる講演でした。

講演後は座談会として、参加者からの質問や心配事をお聞きしたり、参加者同士

の情報交換の時間を設けました。病院と地域住民の方が交流できる時間として、貴重な機会となりました。

参加いただいた方々からは、「認知症は病気ということを知って、何だか腑に落ちた。病気だから受診してもいいと思った。」「最近物忘れがあるように感じて興味を持った。詳しく聞けてよかった。」「相談できることがわかり、気が楽になった。」「などの感想をいただきました。

住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、介護や認知症予防のための取り組みをこれからも定期的に地域住民へ提供していきたいと考えます。



当院では新潟市より受託を受け、新潟市在宅医療・介護連携ステーション西第二として区民向けの公開講座、医療・介護関係者向けの研修会を企画・運営しております。ご相談や研修会のご希望などありましたら、お気軽にご活用ください。

患者サポートセンター

医療ソーシャルワーカー 渡邊浩行